2013年、HORIBA創立60周年
One past, One future, One HORIBA

HORIBA
Explore the future

第76期
中間報告書

2013年1月1日～2013年6月30日

株式会社 堀場製作所

オーナーのみなさまへ

ごあいさつ

オーナー（株主）の皆様には、
平素より格別のご支援を賜り
誠にありがたく厚く
お礼申しあげます。

ここに事業の概況と今後の諸施策に
つきましてご報告いたします。

代表取締役会長兼社長　堀場 厚

PART 1　2013年度中間期について

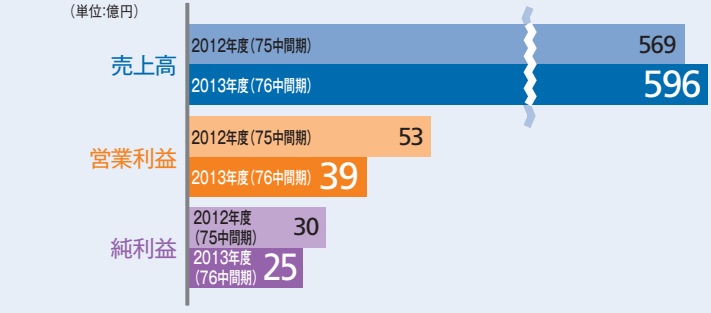
円安効果で増収ながら、出荷ずれ込みなどで減益に

2013年度第２四半期連結累計期間（1月から６月）におけるHORIBAの業績は、売上高が596億8,200万円（前年同期比4.8%増）、営業利益が39億7,400万円（同25.1%減）、経常利益が37億4,000万円（同26.4%減）、四半期純利益が25億2,900万円（同17.1%減）となりました。

この期間における世界経済は、全体として弱い回復が続いており、国内では円安に伴う輸出の増加などにより企業収益が改善、個人消費も持ち直してきました。為替相場は、１月から６月の半年間の平均為替レートが１USドル95.73円、１ユーロ125.62円と、前年同期比でUSドルは17%、ユーロは18%、それぞれ円安になりました。

このような状況のもと、HORIBAでは、為替の円安推移により、海外売上高は円換算で増加しました。しかし利益面では、円安による利益押し上げ効果はあったものの、一部の大口出荷が下期にずれ込んだことに加え、利益率の高い製品の販売が減少したことなどから減益となりました。

中間業績の概要



HORIBAでは「中長期的な視点で投資いただきたい」という想いから、従来の単なる株式の所有者である「株主」という言葉よりも、“会社の所有者”すなわち「オーナー」という表現がふさわしいと考え、表現を統一しています。

PART 2 国内工場の整備について

半導体関連の開発・生産拠点を京都で強化

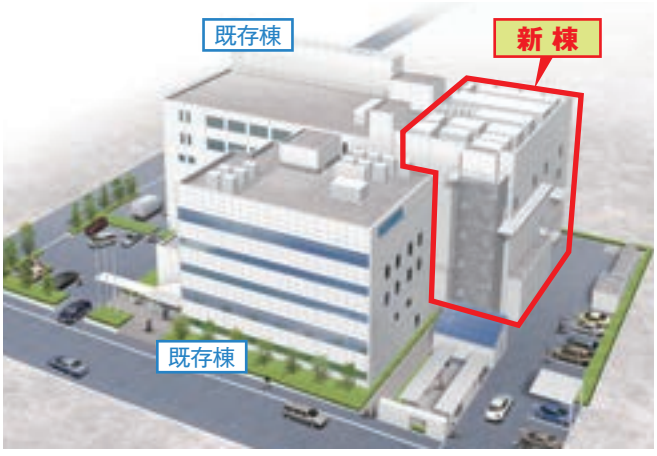
2015年を目標年度とする中長期経営計画における重点施策の一つ「高収益事業への集中投資」として、半導体事業の京都における開発・生産拠点を強化していきます。

その一つとして、福知山市の京都北部中核工業団地内に研究所用地として土地を取得し、「堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター（仮称）」の年内完成をめざし、建設中です。同センターでは、堀場エステック本社の高精度ガス流量計測設備や製品開発用実験設備の一部を移設して、流量制御機器の基礎研究を行い、最先端の半導体プロセスに対応する流体制御機器の開発を加速させる計画です。

また、同社本社内にクリーンルーム及び実験ラボを増築し、「HORIBA最先端技術開発センター（仮称）」を開設します。現在分散している京都における半導体関連事業の開発・生産機能を2014年中に同拠点に集約します。HORIBAグループの分析計測機器の半導体センサーの開発・生産を同社が持つ流体制御技術と融合させ、開発スピードの加速、製品の小型化と生産品質の一層の安定化を図り、競争力のある製品を開発していきます。

当社では、引続き、投資効率を改善し、利益の最大化と継続的な企業価値創造に全力を傾注する所存でございますので、オーナー（株主）の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター（仮称）完成イメージ



HORIBA最先端技術開発センター（仮称）完成イメージ

「顧客視点・ビジネスモデル」主導への変革をめざして

製品力の向上や新規市場への進出に向けて、事業や技術を取得しました。
顧客視点に立ったソリューション提案を実施することで、市場拡大をめざします。

NEWS

米国でシェールガス・オイル関連の計測設備事業を買収

石油・天然ガスの採掘・精製設備を製造するキャメロン社(米国テキサス州)より、エチレン精製などのプロセスにおける計測設備の事業部門を2013年2月に買収しました。買収した事業では、化学反応や熱を利用して原油を工業用原料に加工するプロセスにおいて、液体やガスの計測設備を供給します。分析計のみならず、石油化学産業の精製・分解・加工プロセスに必要な各種計測機器をシステム化して一括提供することで、事業の競争力を高めていきます。また、既存の分析計に関する技術力と同社より買収したノウハウ・設備・人財※との相乗効果を活かし、市場開拓を進めるとともに、営業・サービス網を活用することで、顧客ニーズに迅速に対応できる体制を整備していきます。5年後の2018年には、米州の環境･プロセスシステム機器部門の売上高において2012年度比で約6倍にあたる60億円をめざします。

※HORIBAでは、従業員を大切な財産と考えて「人財」と表現しています。

石油精製やエチレンなどの製品化プロセスでガス計測を行う計測建屋

NEWS

電子ビーム技術をトプコンより取得

株式会社トプコン(東京都)より、同社が持つ電子ビーム技術を2013年3月に取得しました。電子ビーム技術とは、目では見えない微細加工された半導体表面やウィルス・細菌などに対し、電子ビームを照射することで画像として可視化する技術です。一方、HORIBAは理科学分析分野において、X線や赤外線などの光を用いた分析計測技術を基幹技術として持っており、工業製品に含まれる元素の分析や粒子の解析などに活用されています。

今後は、電子ビームを用いた技術資産やノウハウと、既存の理科学分析機器における分析・計測技術を組み合わせ、マイクロ・ナノといった微細領域における画像化技術を補完することで製品開発力をより強化していきます。

製品紹介

TOPICS

科学システム機器部門

「LAQUA(ラクア)」ブランド第3弾を発売

ポータブル水質測定器シリーズ「LAQUAact」

pHや電気伝導率を測定する手のひらサイズのポータブル水質測定器シリーズ「LAQUAact(ラクアアクト)」3モデル7機種を発売しました。2011年から展開している水質分析計の統合ブランド「LAQUA」の第3弾で、業界では初めて本体に自動車部品に使われているポリカーボネート樹脂を採用したことにより、既存製品比2倍の耐衝撃性、10倍の耐薬品性を実現。さらに、新たに開発した上水用の電極においては、上水の水質測定時間を従来の半分である90秒に短縮しました。

化学や食品、医薬品など水質に関わる幅広い分野に適した水質計を取り揃えることにより、科学技術の発展や水環境の安心・安全につながることを期待しています。

科学システム機器部門

業界最高精度※で微粒子の大きさを測る「LA-960」を発売

粒子径分布測定装置「LA-960」

レーザー光を使って微粒子の大きさを測定する粒子径分布測定装置の新製品「LA-960」を発売しました。

粒子径分布測定装置は、セラミックス、燃料電池、触媒、化粧品、食品、製薬などの「粉・パウダー」を原材料とする分野において、研究開発や品質管理の現場で使用されています。

LA-960では、粒子径の測定精度保証が業界最小※の20ナノメートル(当社従来製品は30ナノメートル)になり、他の粒子径分布測定原理や方式と比較して、広い粒子範囲で測定できるようになりました。

製品特性を左右する粒子の大きさや分布について、ミリからナノ領域まで高精度に測定できる装置を提供することで、最先端のものづくりに貢献していきます。

※当社調べ(2013年6月時点)

「TASUKI～おもいをつなぐ～」創立60周年記念活動

**堀場製作所は、2013年1月26日に創立60周年を迎え、同日に国立京都国際会館において国内グループ会社全拠点と16ヵ国の海外グループ会社から約2,500名の従業員が一堂に集い、記念式典を開催しました。
そのほか、次なる60年に向けて創立60周年記念活動に取り組みました。**

NEWS

科学の楽しさ発見プロジェクト

2013年3月に京都府下の高校に通う高校生を対象に、科学への興味を深めるイベント「科学の楽しさ発見プロジェクト」を堀場製作所京都本社にて開催しました。科学に関する知識と身近な現象が結びつく瞬間のおもしろさを感性豊かな高校時代に体験してもらいたい、というホリバリアン※のおもいにより実現しました。募集に応じた10校17名の高校生は、液体サンプル20種と選択肢20個を同定する水当てクイズやHORIBA製品を使った分析などを通じて、学校で学んだ知識が製品開発、さらには社会でどのように役立っているのかについて理解を深めました。

水当てクイズの様子

NEWS

One Company Song「Joy & Fun」

創立60周年という節目の年に、世界中のホリバリアンのテーマソングとなるOne Company Song「Joy & Fun」を制作しました。作詞作曲は著名アーティストの作曲も手がける葉山拓亮さん。HORIBAの社是「おもしろおかしく」の英訳である「Joy & Fun」をはじめ、世界中のホリバリアンより集められたキーワードから制作されました。
この歌には、国籍や文化の違いを超え、心を一つにしたいというおもいが込められています。
One Company Songは、HORIBA CHANNEL（⇒詳細は13ページ）にてお聴きいただけます。

※当社では、HORIBAグループに所属する従業員のことを親しみをこめて“ホリバリアン”と呼んでいます。

オーナーの皆様の日頃のご支援に対し感謝の意を表し、前期第75期の期末配当では、創立60周年記念配当として１株につき10円をすでに実施しました。

HORIBAカレンダーが国際カレンダー展で優秀賞を受賞

HORIBAでは企業カレンダーを「365日メディア」ととらえ、多様な地球の生態系を見つめることが本当の環境保全につながるというおもいから、毎年１つのテーマにもとづいて、365日すべてに違う動物や植物のイラストが登場するユニークなカレンダーを20年間制作しています。ドイツ・シュツットガルトで開催された「第63回国際カレンダー展」に出展した2013年のカレンダー「憧れの翼」は、世界各国で高い評価を受けた約1,000点の中から、優秀賞の“Excellent calendar”を初めて受賞しました。

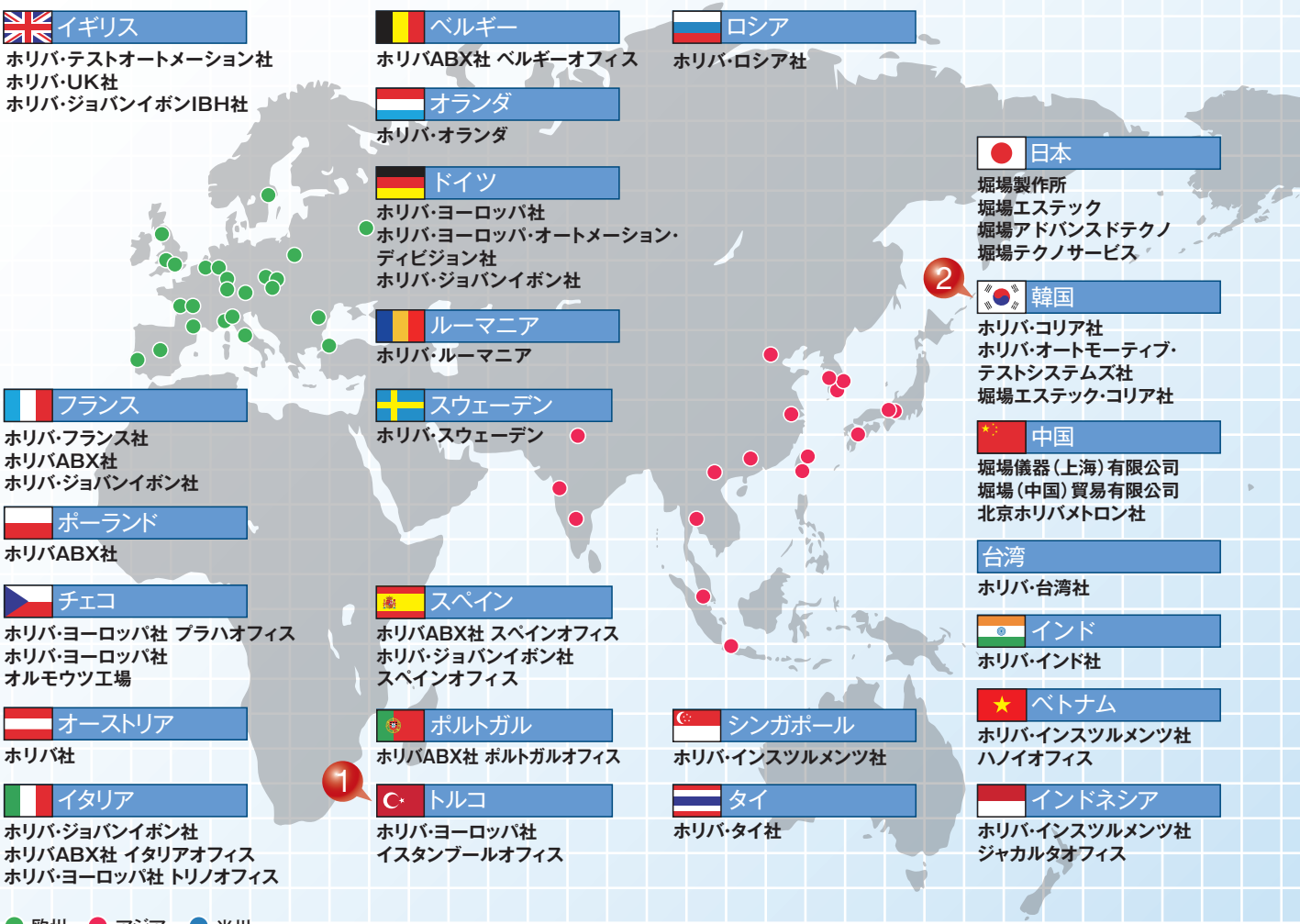
カレンダーのテーマは「江戸の鳥」。江戸時代に描かれた身近な日本の鳥や海外からもたらされた珍しい鳥、空想の鳥などの絵について和紙をイメージした背景に365日分レイアウト。目を見張るほどの描写技術や色彩感覚を楽しんでいただけます。さまざまな技法や顔料を編み出し、創意工夫を凝らして絵を描く先人たちから学ぼう、というコンセプトから生まれました。

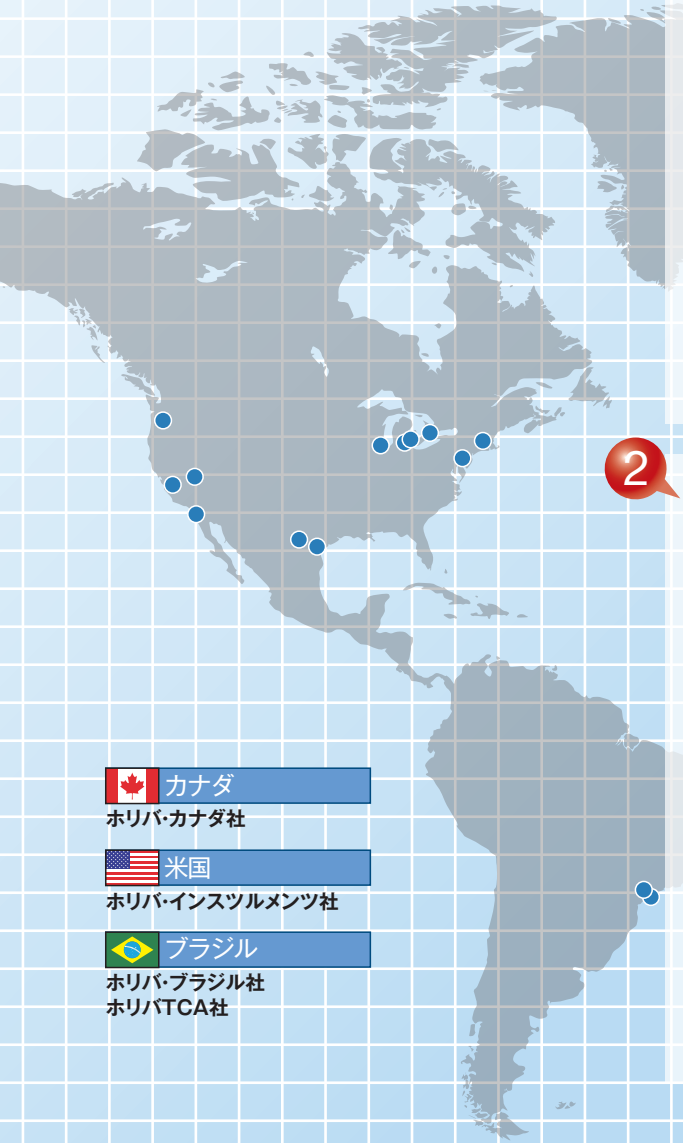
※2014年HORIBAカレンダーのご購入につきましては、11月中旬頃にホームページにおいてご案内させていただく予定です（2013年HORIBAカレンダーの販売は終了いたしました）。

2013年HORIBAカレンダー
「憧れの翼」

世界に広がるHORIBAのネットワーク

HORIBAは、世界26ヵ国に拠点を設置し、グローバルにビジネスを展開しています。
「HORIBA Group is One Company.」の経営方針のもと、5事業部門（自動車計測、環境・プロセス、医用、半導体、科学）をバランスよく成長させ、3地域（アジア、米州、欧州）においてグループ一体となる経営をめざします。





カナダ
ホリバ・カナダ社

米国
ホリバ・インスツルメンツ社

ブラジル
ホリバ・ブラジル社
ホリバTCA社

1 トルコ・イスタンブールに駐在員事務所を開設

トルコのイスタンブールに同国初の拠点となる駐在員事務所を開設しました。同国は近年急速に経済成長しており、労働力人口の増加を背景にさらなる経済発展が期待されています。HORIBAにおいては、従前より現地販売代理店を通じて自動車計測事業の営業活動を行ってきました。駐在員事務所の開設を機に、販売代理店との連携強化を図るとともに、同国市場へ積極的にアプローチする体制を整えていきます。

イスタンブールの駐在員事務所が入居するビル

2 ホリバ・コリア社新社屋オープニングセレモニー

2013年4月にホリバ・コリア社の新社屋オープニングセレモニーを開催しました。新しい社屋は、韓国ソウル市江南区に位置し、同国で自動車計測機器事業を展開するホリバ・オートモーティブ・テストシステムズ社と半導体事業の中核を担っている堀場エステック・コリア社へよりアクセスしやすくなりました。従来の社屋に比べ約４倍の広さとなり、オープニングセレモニーでは、同国内3社の従業員を含め約130名が集い、25年間にわたるホリバ・コリア社の歩みを振り返る機会となりました。

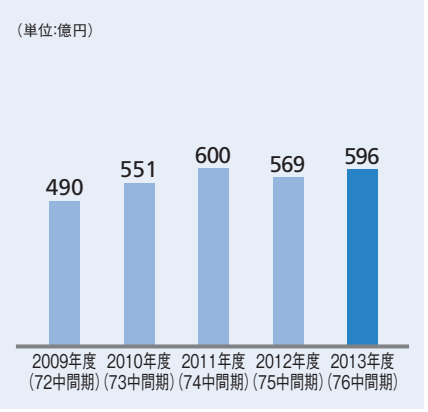
オープニングセレモニー

中間業績ハイライト

売上高

596億8,200万円

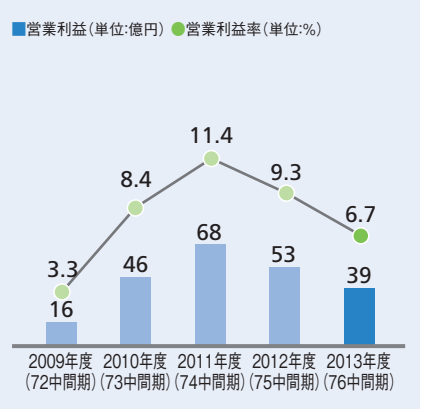
（前年同期比4.8%増）



営業利益

39億7,400万円

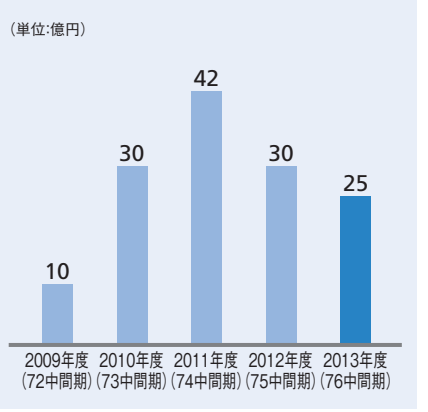
（前年同期比25.1%減）



純利益

25億2,900万円

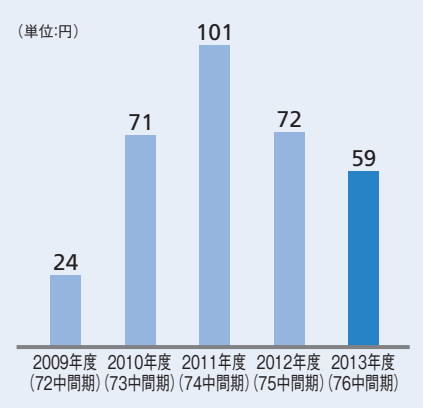
（前年同期比17.1%減）



一株当たり純利益

59円

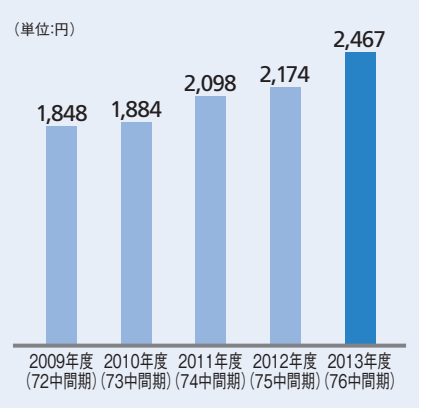
（前年同期比17.1%減）



一株当たり純資産

2,467円

（前年同期比13.5%増）



■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：億円）

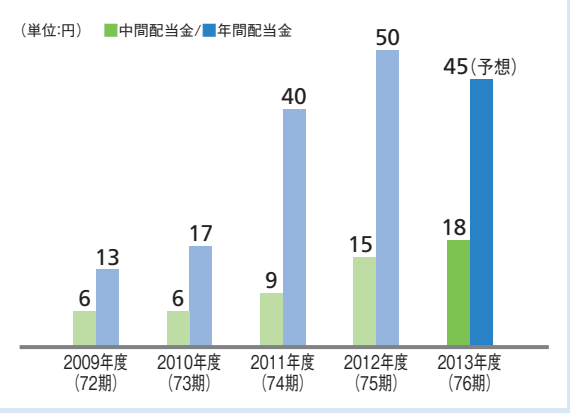
科　目	2009年度（72中間期）	2010年度（73中間期）	2011年度（74中間期）	2012年度（75中間期）	2013年度（76中間期）
営業活動によるキャッシュ・フロー	94	81	37	95	62
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 32	△ 16	△ 34	△ 31	△ 40
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 32	△ 4	5	△ 37	△ 29
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△ 10	3	0	5
現金及び現金同等物の四半期末残高	258	325	356	384	387

»中間配当金について

HORIBAでは、オーナーの皆様への利益配分について、基準配当性向主義を上場以来採用しています。2013年度（76期）からは、連結業績とより直接的に連動した株主還元を実施するため、個別純利益の30%を基準とした配当方針から、配当金と自社株買いを含めた株主総還元額を連結純利益の30%を目処とする方針に変更しました。8月6日現在、連結通期純利益の予想をもとに、2013年度通期の配当金予想を45円としていますが、このうち、2013年度の中間配当金としては、1株当たり18円とさせていただきました。

一株当たり配当金

18円（前年同期比3円増）



※2012年度（75期）の年間配当金は、普通配当金40円に創立60周年記念配当金として10円を加えています。

自動車計測システム機器部門

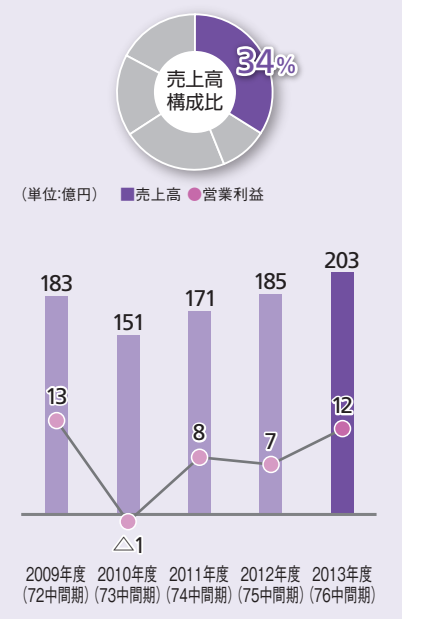
自動車の開発に欠かせない各種分析装置を自動車メーカーなどに供給。その中でもエンジン排ガス計測システムは、その性能とサービス面の信頼性により各国の認証機関で採用されています。

売　上　高　203億1,500万円

（前年同期比9.4%増）

運行管理システムの販売減少や、一部の大口出荷が下期へずれ込むなど収益が悪化しました。一方で、円安効果に加え、自動車メーカー等の設備投資や研究開発投資の回復により主力の排ガス測定装置やMCT（自動車計測機器）事業関連製品の販売が上向きつつあり、前年同期比で増収増益となりました。

この結果、売上高は203億1,500万円と前年同期比9.4%の増収、営業利益は12億1,700万円と同65.8%の増益となりました。



環境・プロセスシステム機器部門

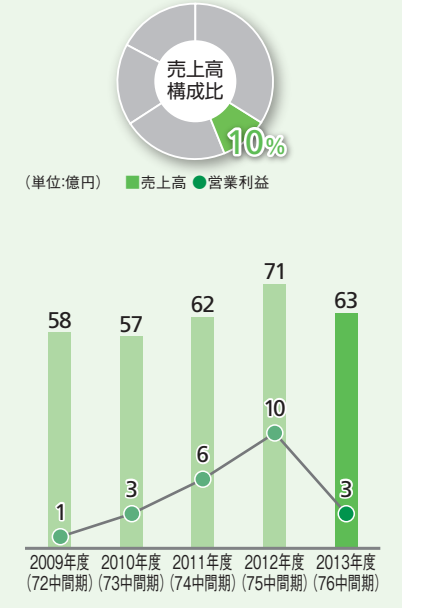
大気・水質・土壌に幅広く対応する分析・計測機器をグローバルに供給。電力、鉄鋼、化学、石油精製プラント、製紙、食品などの産業分野において、環境の汚染防止に最適な機能を提供しています。

売　上　高　63億6,400万円

（前年同期比10.5%減）

東日本大震災後に需要が拡大した煙道排ガス分析装置や環境放射線測定器の販売が減少したことに加え、大気汚染監視用分析装置の販売も低調に推移しました。

この結果、売上高は63億6,400万円と前年同期比10.5%の減収、営業利益は3億5,900万円と同64.8%の減益となりました。



医用システム機器部門

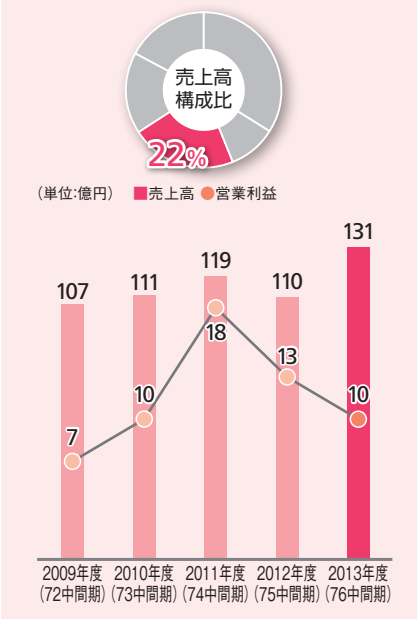
自動血球計数装置や血糖値検査装置、それらに使用される検査試薬を開業医、検査センター、病院向けに提供。人間用だけでなく動物用の自動血球計数装置や血糖値検査装置もラインアップしています。

売　上　高　**131億200万円** ↗

（前年同期比18.7%増）

アジアでの血球計数装置の販売が堅調に推移したことに加え、円安により海外での売上高が円換算で増加しました。一方で、北米での販路拡大に向けた費用増加などにより収益性が悪化しました。

この結果、売上高は131億200万円と前年同期比18.7%の増収、営業利益は10億3,000万円と同26.4%の減益となりました。



半導体システム機器部門

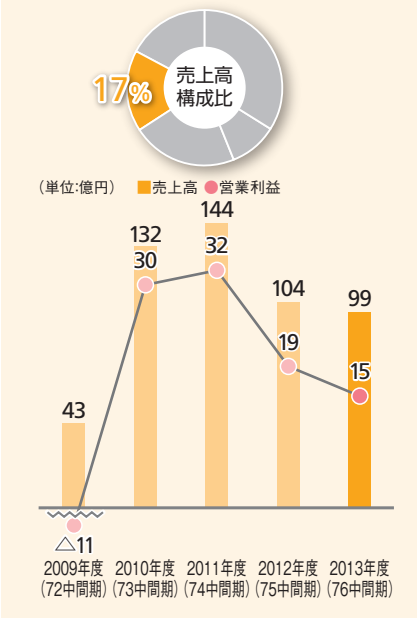
半導体やLED（発光ダイオード）、太陽電池の製造工程で使われるガスや液体の流量制御装置（マスフローコントローラー）、洗浄工程用の薬液濃度モニターなどを提供しています。

売　上　高　**99億5,300万円** ↘

（前年同期比4.4%減）

半導体製造装置メーカー向けのマスフローコントローラーの販売は、顧客の増産により当第2四半期に入ってから徐々に回復しつつあるものの、第1四半期の低迷が響き、前年同期比では減収となりました。

この結果、売上高は99億5,300万円と前年同期比4.4%の減収、営業利益は15億5,700万円と同19.5%の減益となりました。



科学システム機器部門

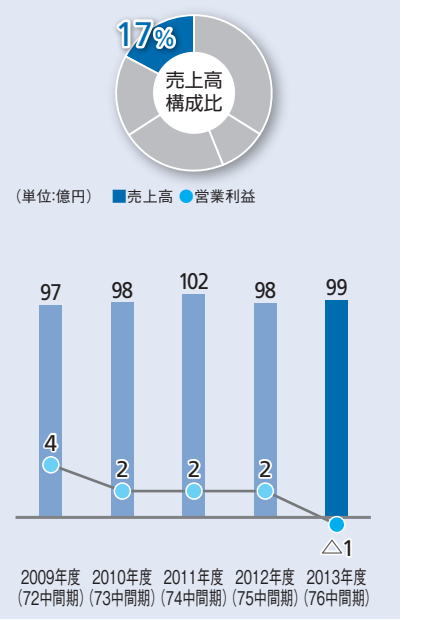
X線を用いた固体分析や分子構造を解析する分光分析などあらゆる分析・計測のニーズに応える製品を販売。未来のハイテク製品や新素材を生み出す最先端の研究者たちを積極的にサポートしています。

売　上　高　**99億4,600万円**

（前年同期比1.4%増）

円安により海外での売上高が円換算で増加しましたが、各国での政府予算削減などの影響から大学・研究機関向けの販売が減少しました。

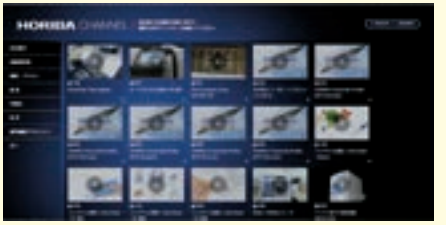
この結果、売上高は99億4,600万円と前年同期比1.4%の増収になりましたが、営業損益は1億9,100万円の損失（前年同期は2億1,800万円の営業利益）となりました。



ウェブサイトのご紹介

●HORIBA CHANNEL

ホームページ内に、HORIBAの最先端の分析機器や事業について映像と音声で体感いただける「HORIBA CHANNEL」を開設しています。HORIBAの事業内容や製品を詳しく紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



URL http://channel.horiba.com

HORIBA CHANNEL　検 索

●IR情報

ホームページでは、2013年8月に実施した決算説明会（証券アナリスト・機関投資家向け）の様子を、説明会の資料とともに音声配信しています。以下のURLよりアクセスできますので、ぜひお聴きください。スマートフォンやタブレット端末でもご覧いただけます。

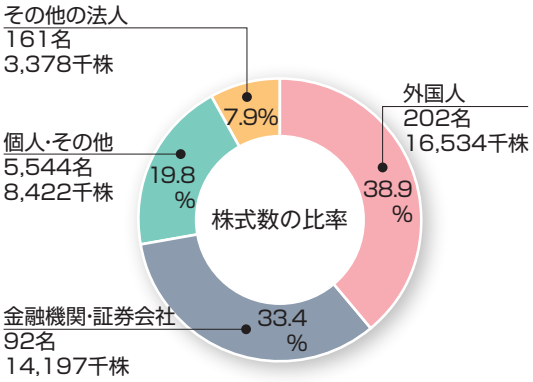
URL http://www.horiba.co.jp/

株主・投資家のみなさまへ
▼
IRライブラリー
▼
決算説明会資料

株式の状況（2013年6月30日現在）

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	42,532,752株
株主数	5,999名

● 株主構成



● 大株主（上位10位）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,668	6.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,235	5.25
TAIYO FUND, L.P.	2,130	5.00
全国共済農業協同組合連合会	1,287	3.02
堀場　雅夫	1,200	2.82
818517ノムラルクスマルチカレンシジエイピストクリド	926	2.17
株式会社京都銀行	828	1.94
堀場　厚	809	1.90
堀場洛楽会投資部会	803	1.89
シービーエヌワイ　エッジポイント　ウェルス　マネージメント	752	1.76

株価チャート（週末値）

オーナーメモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日 定時株主総会 期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 （電話照会先）	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 Tel：0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所(※)	東京（第1部）
証券コード	6856
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.horiba.co.jp/)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

※東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、2013年7月16日より上場証券取引所は東京証券取引所のみになりました。

環境フォト・コンテスト2013

[表紙写真]

堀場製作所賞
「地球のささやき」佳作　受賞作品

「旅立ち」　谷口　たけ子

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された方は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。
確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りのオーナーの皆様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

＊確定申告をされるオーナーの皆様は、大切に保管ください。

株式会社 堀場製作所
京都市南区吉祥院宮の東町２番地
〒601-8510 Tel:(075)313-8121　http://www.horiba.co.jp/

2013年、HORIBA創立60周年
One past, One future, One HORIBA

●シンボルマークのデザインについて

堀場製作所　創立60周年記念事業のテーマは「TASUKI～おもいをつなぐ～」。コーポレートカラーと5つの事業のイメージカラーで配色された1本のタスキの“60”には「おもいをつなごう。先達から次世代へ、世界へ。」というメッセージが込められています。

この印刷物は、環境に配慮し植物油インキを使用しています。
VEGETABLE OIL INK